

令和7年度 西伊豆町教育委員会第2回定例会議事録

- 1 開催日 令和7年6月18日(水) 13:30～15:30
- 2 場 所 西伊豆町中央公民館 1階 講義室
- 3 出席者 鈴木秀輝教育長、高橋浩委員(職務代理)、影山やえみ委員、長島宗紀委員
[事務局 朝倉通彰、川口英之、山本諭]
- 4 欠席者 眞野有吏委員
- 5 傍聴者 なし

教 育 長：本日の出席者は4名です。過半数に達していますので、ただいまから令和7年度第2回の定例会を開催いたします。まず、議事録の承認についてですが、令和7年5月14日開催の令和7年度第1回定例会の議事録については、私と高橋委員が確認し署名いたしましたので、承認いただいてよろしいでしょうか。(委員：全員異議なし)
はい。ありがとうございました。続きまして、今回の議事録署名委員ですが、影山委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。(影山委員：了解)
ありがとうございます。それでは議題に入ります。日程3の協議になります。令和6年度に西伊豆町教育委員会の自己点検評価報告書の内容についてを議題とします。事務局から説明をお願いします。

朝 倉：はいそれでは説明をさせていただきます。毎年のことになりますけども、根拠法令については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第26条に記載のとおり、点検評価を行ってその結果を報告書にし、議会に提出して公表する必要がございますので、まずは事務局での点検評価を作成した内容についてですね、教育委員の皆様方のご意見を伺った後にですね、24日に評価委員会の1回目を開催したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。それではまず、点検報告書の1ページをお願いいたします。1ページの大項目1の教育委員会の活動、から説明させていただきます。(1)の教育委員会会議の運営改善というところで、教育委員会会議の開催回数でございますが毎月1回の定例会を予定しておりましたけども、議案等の審議事項がない場合などは開催を見送りましたので定例会10回の開催となりました。会議では、規則等の改正のほか教育行政の基本方針や教育委員の任命、教職員の人事案件など、町の教育の充実に向けた審議が行われましたということで評価はAとしております。次の教育委員会会議の運営上の工夫でございますが年間予定表を第10回の定例会で配付させていただきましてできる限り全ての委員の方が参加できるように努めてまいりました。事前に配布が可能な案件につきましては開催通知とあわせて会議資料を配布しまして案件に対する理解を深めるように努めました。こちらも評価はAとしております。

次の(2)の教育委員会会議の公開、保護者や地域住民への情報発信でございますが、まず、教育委員会会議の公開の状況ということで、開催告知は開催日のおおむね2週間前までに定例会の招集の告示をしてまいりました。今回会議の傍聴者はございませんでした。ということでこちらも評価Aとしております。次に議事録の公開、広報、公聴活動の状況ということで議事録については、定例会開催のおおむね10日後までに町ホームページに掲載するよう、迅速な対応に努めてまいりましたので、こちらも評価Aとしております。次に(3)の教育委員会と事務局との連携ということで、こちら会議終了後にはですね県教委や町の動向などの情報提供に努めるとともに、懸案事項などについて意見交換を行い、教育委員会と事務局との連携を図ってまいりました。ということでこちらも評価Aとしてございます。それから(4)番の教育委員会と首長の連携ということで総合教育会議を2回開催しまして首長と教育委員との意見交換が行われました。第1回の会議では中学生国際交流事業や部活動改革について、第2回

の会議では、令和7年度西伊豆町教育行政の基本方針案、小学校の統合、部活動の地域連携などについて意見交換し、首長と教育委員会との意思疎通が図られました。ということでこちらも評価Aとしてございます。次に（５）の教育委員の自己研鑽でございますが、第63回静岡県市町教育委員会研修会に全員が参加しまして、令和7年度の静岡県教育委員会の施策と予算及び不登校の現状と対策についての理解を深めました。ということで評価Aとしております。次に（６）の園・学校及び教育接施設に関する支援・条件整備ということで、まず、園・学校訪問ということで、教育委員会定例会に合わせて学校訪問を実施し、校長園長から子供の様子や施設の状況などの説明を受けるとともに、仁科小学校では学校給食をいただくなど、教育・保育現場の現状を知る貴重な機会となりました。また、賀茂小学校の統合式及び仁科小学校の入学式、各園の卒園式及び各校の卒業式に出席しました。ということで、こちらも評価をAとしてございます。次に所管施設の訪問ということで教育施設環境の現状把握を目的に、学校施設の視察を実施しました。社会教育施設については図書館及び旧田子中学校の文化財展示の視察を実施しました。ということでこちらも評価はAとしてございます。以上です。

教 育 長：それでは1ページ目の大項目1教育委員会の活動について。これについて何かご意見ご質問がありましたら。お願いします。よろしいですか。はい。それでは2ページの大項目の2教育委員会が管理執行する事務についてをお願いします。

朝 倉：はい。2ページの教育委員会が管理執行する事務の（１）です。教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関することということで、令和7年度教育行政の基本方針について、第10回定例会において協議をしております。（２）の教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定及び廃止に関することということで、条例改正が1件、条例の廃止が1件、規則の制定が2件、規則の改正が2件、規程の改正が1件、要綱の制定が2件、要綱の改正が3件、要綱の廃止が2件、合計で14件の改廃を行っています。（３）の教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関することということでございますが、令和6年度の実績はございません。（４）の教育委員会及び教育委員会の所管に関する学校その他教育機関の職員の任免その他人事に関すること。ということで教育委員の任命について第1回及び第9回定例会において審議し、影山委員、高橋委員の再任が可決されました。令和6年度末の学校長等の人事異動の内申について、第9回定例会において審議し可決されました。また、令和7年度の教育委員会事務局職員の人事異動について第10回定例会において議案上程し可決されました。ということで4件の審議を行っております。それから（５）の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関することでございますが、令和5年度の教育委員会関連事業の自己点検評価を行いまして、教育委員会評価委員からの意見とあわせて9月の町議会定例会で報告しております。（６）の教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ることということにつきましては、特に意見の申出はございませんでした。（７）の県費負担職員のサービスの監督の一般方針を定めることということで令和6年度に方針を定めた実績はございません。（８）の人事の一般方針を定め及び懲戒を行うことということでこちらも実績はございません。（９）の学校公民館・図書館の敷地の設定及び変更を決定すること。こちらについても、令和6年度の実績はございません。（１０）の教育委員会の所管に関する各種委員会の委員の任命または委嘱に関することということで、第1回定例会において社会教育委員会委員の委嘱を行っております。それから（１１）の通学区域を定めることということで令和6年度の実績はございません。それから（１２）の校長、教員その他教育職員の研修の一般方針を定めること。ということでこちらに記載の研修会を実施してございます。以上になります。

教 育 長：はい。それでは、2ページの大項目の2教育委員会が管理執行する事務につきまして、

ご意見やご質問ありましたらお願いします。それでは、3 ページの大項目、教育委員会が管理執行を教育長に委任する事務ですが、項目がたくさんありますので、まず、中項目（1）の確かな学力と自立する力を育む教育について説明をお願いします。

川 口：はい。それでは私学校教育係の川口と社会教育係の山本主幹から説明をさせていただきます。まず、大項目3の小項目1番上からご説明をさせていただきます。特色ある学習の推進ということで、学校経営目標や児童生徒の実態、学力調査結果等に基づき、予算の範囲内で学力向上の対応策や授業力を高めるための研修等を検討し、学校ごとに特色ある学校づくりを推進いたしました。小学校2校において、教育用レゴブロック、コードモンキーなどを活用したプログラミング教育を実施し、プログラミングに関する知識を習得しただけでなく、プログラミングを通して、問題解決のための発想力も養われました。また、仁科小学校、賀茂小学校において演劇や音楽鑑賞を実施しまして芸術に触れる機会をつくったほか、仁科小学校では、漢字能力検定の受検など学力向上につながる取組も実施いたしました。西伊豆中学校ではプロの和太鼓芸能集団「鼓動」を招き、太鼓の演奏やメンバーとの協演により、本物の芸術に触れる大変良い機会となりました。小学校5年生以上の児童も合同で実施いたしました。また、個別の習熟度に応じて問題が変わるA Iドリル「ドリルパーク」を活用し、夏季冬季休暇中の受験対策講座、学力検査を行い、生徒個人に合わせた指導を実施することができました。ということで評価をAとしております。続きましてその下になります。情報教育の推進です。1人1台のタブレット端末を活用し、学校における授業方法の工夫改善や家庭学習での活用により、充実した学習の実施につながりました。また、個別の習熟度に応じて問題が変わる教材ソフトのA Iドリルを全校に導入するなど、タブレット端末を使用した授業の推進を図りました。授業におけるI C Tの活用を推進するため、I C T活用研修会を開催し、各校における課題の共有を図るとともに、学校情報セキュリティポリシーの策定について協議いたしました。評価をAとしております。続きまして、民間連携による学力向上です。こちらにつきましては、株式会社Z会と連携し、各小学校の5年生を対象にZ会が作成した教材を使った国語の授業や日本語運用能力テストなどを実施し、語学力の向上対策に取り組みました。こちらも評価はAとしております。続きまして、国際教育・交流の充実です。こちらはJ E Tプログラム（外国青年招致事業）2人と地域おこし協力隊1人の計3人のA L Tを任用し、英語教育の充実に努めました。長期休暇には、イングリッシュサマーキャンプを開催し、延べ20人の小中学生が参加いたしました。また、親子英語交流会には3組の親子が参加し、ゾンビゲームや爆弾ゲームといった海外の遊びを通して楽しく英語を学びました。A L Tのさらなる活用について検討するため、A L T推進委員会を立ち上げ、各校の活用事例や今後の活用の仕方について協議いたしました。また、5年ぶりに台湾との交流事業を復活し、中学生5人が台湾屏東県のホストファミリー宅で4日間のホームステイを経験いたしました。帰国後は校内発表会を開催し、大変有意義な事業を展開できました。ということで評価をAとしております。続きまして複式学級への対応です。児童数の減少に伴い、賀茂小学校の2、3年生と仁科小学校の2、3年生が複式学級となりましたが、標準的な教育水準確保のため、全額町費負担による複式学級補助員を配置いたしました。これにより通常学級とほとんど変わらないきめ細やかな教育が図れました。ということで評価をAとしております。

山 本：続きまして家庭教育の充実になります。子供の健全な育成を行う上で重要な役割を担う家庭教育の充実を図るため、町内の園・小・中では、家庭教育学級を設置し、保護者同士が自らできる活動を模索し、企画・立案して、計画的、継続的に活動を進めました。教育委員会としては、家庭教育学級への補助金を交付するとともに、保護者や学級間の意見交換の場として、家庭教育推進協議会を開催しました。ここですが、すみませんちょっと修正があります。最後に書いてあります家庭教育協議会のほうは開催していなかったものですから、この1文についてはですね、教育委員会としては、家庭教育学級へ

の補助金を交付し、支援を行いました。というふうに変えさせていただきたい。評価はAとしました。

川 口：それでは次の総合学習の推進になります。各学校において、学年ごとに総合的な学習のテーマを設け、地域に密着した体験や学習を行い、自然や人と触れ合い、地域に対する興味や関心など、豊かな感性や自分なりの考えを高め深めることができました。また、郷土に対する愛着心を高めることにつながりました。西伊豆中学校では、松崎高校との連携教育をきっかけに、西豆の2中学校と松崎高校は郷土学習を中心とする共通の学習である「西豆学」を行っています。「西豆を体験しよう（全学年）」と「職場体験（2年生）は松崎中学校と合同で実施し、1月には松崎高校1・2年生を交えた西豆学中高合同発表会を行いました。こちらにつきましても評価はAとしております。続きまして次ページをお願いいたします。1番上から一貫教育の推進になります。松崎高校と西豆2中学校の連携型中高一貫教育では、連携事業を行い、生徒たちが一緒に考え、体験し、協力することで、それぞれが成長することができました。今後ますます少子化が進む中で、松崎高校を存続するには、中高一貫教育による更なる連携強化が必要です。また町一貫教育研究会が中心となり、園から中学校までを見据えた子ども子育てのため、研修会など様々な連携事業を行い、つながりを持った教育に寄与しています。町では、平成30年度から松崎高校へ進学する成績優秀者に給付型の奨学金を給付する事業を実施しております。令和6年度には新たに1人を認定し、既存の認定者3人と合わせて4人が給付を受け、松崎高校へ進学しています。こちらら評価はAとしております。続きまして、幼児教育・保育の充実になります。町内の認定こども園では、それぞれの地域の特性を生かした特色ある園の教育目標を持ち、幼児教育の狙いとする「健康・人間関係・環境・言語・表現」や基本的生活習慣、食育、家庭や地域と地域との連携のほか、一貫性のある幼少接続を目指し、小学校入学までの3年間の教育課程を細分化し、個々の成長に合わせた取組を行いました。また、園外活動により幼児の五感を刺激しながら成長につなげたり、2園の園児交流や小学校児童との交流、ALTによる英語活動の時間を設けるなど、様々な人との関わりを持つことで好奇心等を育むことができました。また、令和6年度から、両園において保護者による1日保育体験を実施し、66人の保護者の参加がありました。この体験を通じて、我が子の発達やこれからの接し方、保育者の仕事の大変さについての理解を深めていただくことができました。こちらにつきましても評価はAとしております。

山 本：幼児教育・保育の充実での最後のほうに保育体験を実施し、66人の保護者の参加がありましたとありますが、66人も参加したんですか。結構な参加ですね。

朝 倉：伊豆海は全員来ています。それで仁科も結構、半分までいかないですけど、何人か文句を言うてくる人もいますけど、大半の方はやってよかったというふうなご意見をいただいています。というのはやっぱり先生方の苦労だとかもそこで見えますし、自分の子供がほかの子に対してどう接するか、成長がみんなと比べてどうなのかっていうところは間近に見えるわけですね。それで、ちょっとうちの子心配な点があるんですっていう発見にもなったりするのでいいんじゃないかなと思います。父親も参加してる家庭もありました。

教 育 長：それでは、4ページの（2）から5ページの前半の（3）までの説明をお願いします。

山 本：はい。それでは、地域環境づくりの推進についてご説明します。青少年健全育成に関する施策の調査審議と行政・関係団体相互の連絡調整を図るため、青少年問題協議会を設置し、2回の会議を開催しました。協議会では、夏季冬季の街頭指導、青少年健全育成標語の募集掲載などを行い、地域全体で青少年の健全な心身を育む環境づくりに心がけました。また、令和4年度から開催している子ども議会は、各小学校5・6年生から議員として6人、賀茂小学校から議長として1人が参加し、町に対して思っている疑問や

要望を一般質問形式で町長に投げかけ、町長が答弁しました。なお、各校の6年生は議場の傍聴席から、5年生はZ o o m配信により、各学校で傍聴しました。模擬議会の体験を通じて、子供たちが町の課題について自ら考え、主体的に生きるために必要な能力の育成につながりました。評価はAとしています。

続きまして、青少年活動の推進になります。令和3年度から町内開催となったわんぱくクラブでは、昨年度までは西天城高原「牧場の家」に宿泊し実施しておりましたが、今年度は宇久須キャンプ場のキャンプサイトにテントを張り17人の児童が参加しました。子供たちが町の魅力を体験する貴重な機会となりました。町子ども会球技大会及び郡球技大会は、令和4年度から少子化や保護者の負担軽減のため、ドッジボール大会からポッチャ大会に変更し何とか継続してきましたが、東伊豆町と南伊豆町以外の子ども会は衰退し、存続自体が危ぶまれる状況となり、球技大会は中止となりました。わくわく体験村子ども体験会は、令和4年度と令和5年度の16人から22人と参加者が増え、町内の海を舞台に、シーカヤック、SUP体験、係船釣り、スノーケリングの4回の活動を実施しました。評価はAとしました。

続いて人材の育成になります。自らボランティアとしての資質や能力を高めようとする中学生が、町内事業所等でボランティア活動を行いました。なお、活動時間が20時間を超えた7人、内訳は3年生4人、2年生1人、1年生2人の生徒が静岡県青少年指導者級別認定を受けました。評価はAとしました。

続きまして啓発活動の充実です。町内の小学1年から中学3年までの児童生徒を対象に、挨拶や人を思いやる心の大切さ、非行防止などについての標語を募集し、広報にしないで優秀作品を掲載しました。また、広報にしないで静岡県青少年非行・被害防止強調月間のPRなどを掲載し、子供たちをインターネット利用における犯罪被害等から守るための啓発活動を行いました。評価はAとしました。

川 口：続きまして次ページをお願いいたします。（3）安全・安心を確保し、健やかな体を育む教育の1番上から、学校体育、部活動の充実です。学校体育・部活動に活発に取り組めるよう、部活動での静岡県内の大会参加や練習試合などで生徒を派遣する際の派遣費の補助及びスクールバスの利用により、保護者等の送迎負担の軽減につながりました。こちらも評価はAとしております。

続きまして、安全な給食の提供です。衛生管理マニュアルに基づき衛生管理の徹底を心掛けました。また、食物アレルギー児の代替食の要望については、給食センターの設備等の問題もあり、除去食等安全な給食の提供できる範囲で対応いたしました。こちらの評価はAとしております。

続きまして、魅力ある給食の提供と食育の推進です。給食での食育や地産地消を進めるため、毎月1回ふるさと給食の日として、また、11月18日から22日のふるさと給食週間において、町内産や県内産の地場産品や郷土料理などを提供し、地域文化や伝統に対する理解と関心を深めました。また、朝食の大切さや、正しい箸の持ち方の授業を行ったほか、給食の時間に給食ができるまでの作業工程を動画で配信しました。物価高騰が続く中、給食費の無償化により、保護者の経済負担軽減に寄与いたしました。こちらも評価はAとしております。

続きまして、基本的生活習慣の確立です。各学校において、挨拶をする・時間を守る・バランスのよい食事を取るなど、基本的生活習慣の確立に向け、子供たちに明確な目当てを示し、随時指導を行いました。こちらも評価はAとしております。

続きまして、防災教育の推進です。西伊豆中学校での災害図上訓練「DIG」や避難所運営ゲーム「HUG」、各小学校での災害時判断ゲーム「クロスロード」、各園での動物のイラストを利用した「防災ダック」や職員を対象した「HUG」の実施など、町内各学校・園で各種防災講座を実施するとともに、仁科小学校では、地域との合同避難訓練を実施し、地域の実情の把握や災害時の対応について、防災意識の向上と防災教育の推進

を図りました。こちらも評価はAとしております。

続きまして、安全・安心な環境づくりです。緊急連絡システムすぐるを活用し、町内の各園・学校から保護者へ様々な連絡やアンケートなどを実施しています。また、不審者情報があつた際には、すぐるによる注意喚起を行いました。各学校において、毎月職員による学校施設の安全点検を実施するとともに、定期的に業者による遊具点検を実施し、必要に応じて修理、廃棄することにより、常に安全な環境を維持できるよう努めました。また、賀茂小学校では、放課後学習支援員や遊び見守りボランティアを募り、放課後の子供の居場所づくりを行いました。こちらにつきましても評価はAとしております。

高橋委員：はい。それでは、4ページ。青少年活動の推進で、1番下のわくわく体験村子ども体験ですけど、令和5年の16人からって言う何かちょっと意味が…。令和5年度の16人から20人と参加者が増えたって言えば意味が分かるんですが。令和4年度を削除してもらって。

山 本：はい。すみませんでした。

長島委員：よろしいですか。ちょうど今読んでちょっと一つ上の文章なんですけど、結局これはやらなかったってことですね。

山 本：はい。そうですね。

長島委員：何か、ちょっとなんかやってるふうに見えて結局やってないので、何か最初のこのドッチボールの部分とかも、もう人によるとは思うんですけどなくてもいいかな。

朝 倉：令和4年度から何とか継続してきましたがまでを削除すれば、町子ども球技大会及び郡球技大会は東伊豆町と南伊豆町以外の子どもの会は衰退したため、球技大会は中止となりました。に修正しましょう。

教 育 長：それでは5ページから6ページ、(4)についての説明をお願いします。

川 口：はい。それでは(4)教育環境の整備と教職員の資質向上についてご説明いたします。小項目、園・学校等の再編です。田子小学校と賀茂小学校の統廃合により、4月8日に賀茂小学校統合式を挙行了しました。令和5年度に引き続き、公募による住民参加の小中学校の在り方を考えるワークショップを開催し、まずは今後の小学校の在り方について意見交換を進める予定でしたが、参加者からワークショップの開催についての意味がないのではないか。などの意見が出されたことから、ワークショップの継続を問うアンケートを実施したところ、参加者の半数以上がワークショップの終了に賛成という結果となったため、9月をもってワークショップを終了いたしました。両園のPTAから11月18日付で防災シェルターの導入及びこども園建設に関わる切土調査についての要望書が提出されました。11月21日には、議員有志から旧西伊豆中学校裏山切土造成の事前調査費用の早期予算措置の要望書が提出されたため、12月定例議会において、伊豆海認定こども園へのシェルター導入費用及び認定こども園建設候補地調査業務委託費用を補正予算計上しました。令和7年3月27日に伊豆海認定こども園にシェルター2基の設置が完了いたしました。また、12月下旬に認定こども園の園建設候補地調査業務委託を発注し、現在、調査中でございます。なお、仁科認定こども園へのシェルター導入についても、引き続き検討してまいります。令和7年2月には、小学2年生以下の保護者を対象に小学校の編成について、今後の複式学級の状況などを説明し意見交換を実施いたしました。いただいた意見を踏まえ、今後の方向性を検討していきます。こちらにつきましても評価Aとしております。

続きまして、次ページをお願いいたします。老朽施設の修繕整備です。仁科認定こども園では、園舎空調改修工事、給食室空調設備改修工事、賀茂小学校では、特別教室への空調設置工事、仁科小学校では、特別教室への空調設置工事、体育館の照明LED化工

事、高架水槽送水管改修工事、受電設備微量PCB含有機器取替工事、また、西伊豆中学校では、特別教室の空調設備設置工事、特別教室の照明LED化工事、受電設備微量PCB含有機器取替工事などを行いました。今後も児童生徒の安全に支障をきたすものや緊急性があるものなどについて、計画的な改修及び修繕を進めていきます。こちらにつきましても評価はAとしております。

続きまして、高等学校生徒等への通学支援です。昨年度に引き続き、高等学校等へ通学する生徒の保護者等に対し通学費の一部の助成を行い、子供の教育に係る経済的な負担の軽減に寄与しております。また、令和元年度からは、定期券購入時に助成額を差し引いた金額で定期券を購入できるよう、申請手続の簡素化を図っております。こちらにつきましても評価はAとしております。

続きまして、特別支援教育の推進と連携です。特別な支援が必要な子供に幼児期から中学校までの一貫した支援を行うため、特別支援教育巡回相談員による巡回相談を町内の園や学校で延べ18回実施いたしました。特別支援教育連携推進協議会では、園・学校の具体的な取組について情報交換を行いました。また、昨年度に引き続き、園・学校には特別支援員を配置するなど、支援が必要な子供が十分な教育や支援が受けられるように努めました。令和6年度は、伊豆の国特別支援学校伊豆松崎分校の特別支援教育コーディネーターを招き、「障害理解とその支援について」の題目で講演会を実施し、支援のポイントや具体的な支援方法などについて理解を深めました。こちらにつきましても評価はAとしております。

続きまして、児童生徒の心のケア、教職員の指導充実です。不登校児童生徒に対しては、教職員だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが一体となり、保護者も含めた日常的なサポートを行い、学校復帰を後押ししました。また、田子公民館内に開設している適応指導教室（教育支援センター）では、学校とも連携を図りつつ、学校とは違ったアプローチもしながら支援を行い、よりきめ細やかな対応を心がけました。令和6年度は、静岡県が令和7年度から運用する静岡バーチャルスクールの試験的運用が行われ、1人の生徒が参加いたしました。いじめ問題については、各校から毎月提出される報告で状況把握に努めるとともに、いじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめの現状などについて協議いたしました。こちらも評価はAとしております。

続きまして、教職員の資質向上対策です。昨年度に引き続き、賀茂地区5町で3人の指導主事を共同設置し、併せて下田市1人と県1人の指導主事を加え、広域連携による学校訪問や研修等を行い、教職員の資質向上を図ることができました。なお、指導主事共同設置のうち1人が西伊豆町と松崎町の教育委員会事務局に勤務いたしました。こちらも評価はAとしております。以上になります。

教 育 長：では、（4）についてご質問がありましたらお願いします。

長島委員：1番上の学校等の再編のところなんですけども、後半ですね、両園のPTAから11月10日付防災シェルターの導入及びこども園建設に関わる切土調査ってところで、切土調査はここでもいいと思うんですけど、シェルターの導入ってのは、この再編ここに入っているもんなんですか。なんかちょっと防災シェルターっていうのが学校の再編等に関係あるかな。

朝 倉：そうですね。分けるとすると、その上の安全安心な環境づくりっていうところに持っていかなんですけど、同じことを2回書くような感じになっちゃうんですね。なので一つにまとめさせてもらったんですけど、「園の候補地が決定しない中」っていう一文を文頭に付け加えましょうかね。そういうふうに修正させていただきたいと思います。

高橋委員：今後、この環境整備のためにはいいと思うんだけど、あれだけの大きなエアコンが何十台つくとうどんなんだろうと思っちゃった。電気料どのくらい増えるのかなあとは思った。

朝 倉：ちょっと比較したデータを今持ってないですけど、上がってると思います。時間をずら

してつけるように指導しています。ただやっぱり熱中症があるので、その辺を考慮しながら、できる範囲で節電に努めてくださいということで今までもう、学校教育係から学校にアナウンスをしています。なので、あそこにも表記がありますけど、夏は何度、冬は何度になったら使いましょうねっていうと、一気に全部の部屋を同時に付けると、稼働が一気に上がって電気代が上がってしまうということもあるので、一応学校のほうには指示はしております。

教 育 長：では、6 ページの下の（５）から7 ページの中段の（５）について説明をお願いします。

山 本：では中項目、生きがい潤いのある生活を育む文化芸術の振興についてご説明いたします。小項目1の生涯学習の充実です。生涯学習は子供から大人まで多岐にわたり、要望も多様であるため、町民のニーズに応えるための施設整備や事業選定には難しい面がありますが、毎月発行の広報にしいずに生涯学習事業や新刊図書の紹介のほか、体育及び文化団体の活動内容などを掲載し、会員が参加者の増加に努めましたが、会員は減少を続け、参加者はほぼ横ばいの状態となっています。また、各種事業を行った際は、事後の評価シートを作成した上で事業の検証をしました。評価はBとしました。

続きまして社会教育施設の整備です。社会教育施設は住民の学習活動の拠点となる施設であり、多様化するニーズに対応した整備や改修が必要となっております。各施設ともに年々老朽化が進み、不具合の生じた設備の緊急修繕や、消防法に基づく立入り検査で指摘された設備の改善などの応急的な維持管理に予算の大半を費やしています。今後は個別施設計画に基づき、利用実績等を考慮した上で、長寿命化や廃止等を含めた管理の見直しを行います。評価はBとしています。

続いて、芸術文化活動の推進です。各地域で行われている伝統行事に対し、8 団体中、活動できた4 団体に活動支援として補助金を交付しました。一方で、各地区において、高齢化や人口減少による後継者不足が課題となっています。評価はAとしています。

続いて7 ページ。小項目文化団体の育成支援です。町文化協会が主催する活動への補助及び事務的支援を行いました。令和6 年度は文化展の開催のほか、音楽芸能発表会を開催し、コーラス、大正琴、詩吟、舞踊が参加し盛大に行われました。文化協会は各部で講座を開催するなど、新たな会員確保に努めており、新しく生活技術の1 団体、宇久須生花グループが増えるなど、教育委員会としては、引き続き、会員の確保に向けた支援を行っていきます。評価はAとしました。

続いて、文化イベントの充実です。文化講演会は、社会福祉協議会が主催する社会福祉大会と合同で実施し、気象予報士であり、防災士でもある天達武史氏から気象災害への備えについて講演していただきました。約100人の町民が来場しました。また、文化協会主催の文化展及び音楽芸能発表大会は、昨年度と同様に開催し、来場者はそれぞれ691人と158人でした。子ども演劇鑑賞教室は、賀茂小学校において計画どおりに実施することができました。評価はAとしました。

続いて、図書資料の充実です。話題となっている図書や新刊図書を定期的に購入し、図書資料の充実を図りながら、令和6 年度末現在、25,469冊の蔵書を管理しています。年に1 回蔵書整理を行い、図書の入替えをしながら、保存期限が過ぎた雑誌や、古本等は広報にしいずに掲載し、欲しい方に譲りました。また、他市町の図書館と情報交換を行うとともに、図書等の相互貸借により、利用者の利便性向上にも努めました。評価はAとしました。

続きまして、図書貸出数増加へ取組です。図書館利用の促進と読書活動の普及のため、管内ポップの工夫や特設コーナーの設置などを行いました。また、利用者の利便性向上を図るため、ボランティアスタッフ2 人の協力をいただきながら、昼休みの平日開館を実施しました。昼休み時間の利用者数は1 日平均0.93人、令和5 年度は1.1人となっています。なお、令和6 年度の図書貸出冊数は8,871冊で令和5 年度の10,805冊と比べ、1,934冊の減となりました。また、読み聞かせ会は、前年6 月から月1 回開催しております。評

価はBとしました。

続きまして、姉妹町との交流促進です。令和6年度は、体育協会、文化協会、女性会、スポーツ少年団及び5年生交流を開催することができました。体育協会については、平成29年度に富士見町が来庁して以来の交流となり、大いに盛り上がりました。なお、富士見高原名勝探訪駅伝大会は、開催が例年と違う日になった関係で参加できませんでした。また、西伊豆町夕陽の里マラソン大会は、町内の参加者が全体の23%程度と少なかったこともあり、令和6年度から中止としました。以上です。

高橋委員：図書貸出数増加の取り組みについてですけど、これ毎回そうなんだけど、この小項目を何かこう言い回しがおかしいのかなと思うんだけど。商売じゃないので、物を売って増やすとかで評価される問題じゃないよね。公共機関としては、実際に管内ポップの工夫や特設コーナーやってるわけでしょ。利用客を増やすためにね。それで今お昼の平日開館を実施してるわけでしょ。この取組は一切その評価しないで、冊数が減ったからって評価してるわけ。増加の取組でいうとそうかもしれないので。ただ、この小項目の言い方を図書活用の拡大とか、そういう項目にしていけばさ、実際人口が減ってるわけでしょ。子供の数も減っているわけで、当然、貸出しが減っていくんじゃないの。そしたらこの項目は永遠にBじゃないの。これを改善しましたって自然現象のわけでしょ。一生懸命ポップやったりしてもやっぱり人は減ってるし、子供の数も減ってるし、貸出数増加の取組という項目を何か変えるとか。

朝 倉：これ上の図書資料の充実とこの増加の取組にくっつけて、図書館利用の充実とか推進とかなんかそういう項目の一つにしちゃいましょうかね。図書資料の図書館利用の推進とかでいいんですかね。今年度からこの項目をくっつけちゃって評価をAにして。今高橋委員おっしゃったように、人口減ってくんだから当然減ってくだってというのは、当たり前のご意見だと思いますので。

教 育 長：その辺また考えて修正してください。

長島委員：ちょっと細かいことも申し訳ないんですけど、1番最後ですね姉妹町との交流促進のところで1番最後なんですけど、西伊豆町夕陽の郷マラソン大会は町内の参加者が全体の23%程度と少なかったこともありっていうのは、その前の話でしょ。どこかにちょっと前回とか入れた方がいいんじゃないですか。なんかちょっとないと思いました。すいません、細かい話で。

朝 倉：そうですね。「昨年度の町内参加者が…」と修正させていただきます。

教 育 長：それでは先に進ませていただきます。（6）番について説明をお願いします。

山 本：はい。では、中項目（6）健康な生活を育む生涯スポーツ振興について説明をいたします。まず、スポーツレクリエーション活動の充実、地区対抗球技大会は、前年度から実施しているワンタッチバレーボールを種目として開催し、10チーム155人の参加登録がありました。スポーツ委員会では、次年度以降もワンタッチバレーボールで地区の交流を行っていくこととしています。軽スポーツ教室は、春・秋ともに、昨年度に引き続き、パラリンピックの正式種目で誰でも参加しやすいスポーツとして、ボッチャを取り入れ実施しました。評価はAとしました。

続いてスポーツ施設の整備充実、各スポーツ施設で不具合が生じた設備の緊急修繕や、消防法に基づく立入検査で指摘された設備の改善などを行い、安心して利用できるよう努めました。各施設とも利用者は比較的多いことから、施設の整備や充実を図りたいところですが、老朽化が著しく、維持管理に苦慮しているのが現状です。社会教育施設同様、個別施設計画に基づき、長寿命化や廃止等を含めた管理の見直しを進めていきます。評価はBとしました。

続いて指導者の育成・確保。スポーツ少年団では、運営する際に認定員等の有資格者が必要となります。令和6年度現在、1団体で指導者2人が有資格者となっています。有資格者の育成確保という面においては、活動できている団体がバレーボール1団体となっており、大変厳しい状況となっています。今後、松崎町と連携を取りながら、子供のスポーツについて取り組んでいく必要があると考えています。また、スポーツの指導者の掘り起こしが必要となりますが、人口減少と高齢化に伴い人材確保が課題となっています。評価はCとしました。

続いて8ページ。組織体制の整備。スポーツ推進委員等各団体が予定していた事業は全て行うことができました。各団体とも町の行事等に積極的に参加協力し、相互の連携を図っています。

続いて交流推進体制の整備支援。体育協会主催の静岡スポーツフェスティバルは、前年同様ボッチャを種目として開催し、20チーム募集のところ、一般15チームと小学生1チームから応募があり、48人の参加がありました。また、体育協会に加入している12団体に対し、大体開催等による活動補助を行いました。評価はAといたしました。

教 育 長：（6）についてご意見ご質問はありますか。

朝 倉：すみません。指摘される前に、先ほどの姉妹町との交流促進の中に、最後の西伊豆町夕陽の郷マラソン大会は、ってあるんですけど、これは、この（6）のスポーツレクリエーション活動の充実っていうところに移動させたほうがいいのかなと思います。夕陽のマラソン大会自体は姉妹町との交流促進のためにやってるわけではないので。そこはちょっとこちらで修正をさせてください。

長島委員：姉妹町の人に参加してるかとかではなくて。

朝 倉：それはありますけど、別にそれをメインでやってるわけじゃないので。

高橋委員：これも毎年そうだね。社会教育とかさ、この関係は、スポーツ施設の整備、これができない。指導者の育成確保。Cだったらやめればいいじゃん。これ変わらないと思うよ。人材確保が課題になってますと書いてあるよね。じゃあどうするの。CだけどうやってたらBにしていくのってことだね。だから、なかなかこれは解決できないということが続いているのであれば、もうこの項目は外しちゃうとかさ。何か、じゃないとすごく見栄えが悪いよね。なんかその辺検討してみてください。

朝 倉：わかりました。

高橋委員：スポーツ施設の整備充実も毎回Bなんだけど、これもしょうがないんだよね。老朽化だね。管理の見直しを進めてまいりますというふうに締めてるけど、じゃあどうやって対策するのか。このBをAにする改善策みたいな。

朝 倉：ここは小中一貫校の建設っていうところに向かってきたのでほかの施設に手を入れてこなかったってところがあるわけですよ。今後、小学校の再編であるとか中学校の再編っていう、この方向性が決まっていけば、この施設は改修しましょうとか、建て替えましょうとかっていうところに、一気に結論が進んでいくと思うんで、その学校の再編に影響を受けて手を入れられてないってところが1番大きいと思うんですよ。ただ、仁科小学校だとか西伊豆中学校の体育館だとか、LED化したりですね、手は入ってるわけですよ。ただ、外観の修理というところに手をつけていないっていうのがやっぱりあるので、高橋委員がおっしゃったようにですね、早めに改修してかないと、もう建て替えしないと手遅れだよってことになりかねないので、この辺はちょっと今後、計画的に修繕をしていく必要があるかなというふうに思ってますけど。

教 育 長：ここにある小項目は、こういうことについて努力していかなくちゃ駄目だよってことを示しているのかなと。指導者についてもやっぱりスポーツ振興しようと思っても、指導者確保ということがやっぱり重要な課題になってくるので、この課題は毎年できていないん

だけど、しなきゃいけないことではあるかなと思いますので。スポーツ少年団に限らなくても。

朝 倉：ここはそうですね、今スポーツ少年団っていう見方をしてますけど、例えばこれが部活動地域展開っていうところになれば、当然また今度はその指導者の確保っていうのが出てくるので、それも達成できるか分かりませんが、書き方は変わってくるかなと思いますのでね。

高橋委員：じゃあ現状として仕方ないということですね。

朝 倉：そうですね。達成はできませんけど。

教 育 長：8ページの1番最後の体育協会主催のところ、真ん中のところ、一般15チームと小学生1チームから48人の参加がありました。というのはちょっとわかりにくいかなと。

朝 倉：「一般15チームと小学生1チームの応募があり、48人の参加がありました。」とか。

教 育 長：じゃ、いいですか。（6）はどうでしょう。それでは（7）の説明をお願いします。

山 本：はい。中項目は、地域の誇り、郷土愛着を育む学習文化財保護。学校と地域の融合、促進。地域人材人材を活用し、子供たちの郷土愛と地域とのつながりを育むため、わくわく体験村実行委員会に委託して、海の体験活動を実施しました。また、地元遊漁船組合の協力のもと、ツッテ西伊豆を活用した小学生向け教育事業として、親子親子漁師体験を開催しました。評価はAといたしました。

続いて文化財の保護保存。文化財保護法に基づき、県教育委員会と連携しながら、名勝伊豆西南海岸の景観保護に努めました。現状変更申請25件、期間変更届2件、許可通知27件、終了届21件を処理しています。評価はAとしました。

文化財等の活用。民俗文化財等の貴重な財産を町民に知ってもらうため、今年度も文化財展示会を開催しました。今年度は、新たに県の無形民俗文化財に登録されている人形三番叟を紹介する部屋を設けたほか、今昔写真を展示する理科室の改修及び展示用常設の写真展示室とし、198人の来場者がありました。また、町内の小学3年生や仁科小6年生の社会科見学も開催しました。評価はAとしました。

文化財保護思想の普及。旧田子中学校に展示してある民俗文化財等の整備を進め、11月の文化財保護強調週間中に展示会を開催し、町民の文化財への関心を深めました。また、1月には町内小学校3年生を対象に、また2月には仁科小学校6年生を対象に社会科見学を行い、子供たちに昔の町の様子を知ってもらうよい機会を提供できました。評価はAとしました。

男女共同参画への意識改革。令和5年度に西伊豆町男女共同参画推進プランの見直しを行い、令和10年度までの5年計画を策定しました。具体的な行動としては、6月末の男女共同参画週間について、広報にしいずに記事を掲載し、啓発に努めました。評価はCとしました。

女性団体への支援育成。女性会への活動に対する補助及び支援を行いました。現在、女性会は仁科地区と安良里地区の2団体となり、両団体への負担が更に大きくなっていることもあり、それぞれ役員を引き受けてくれる人が見つからず、今後の会の存続が危ぶまれている状況です。なお、令和6年度は、女性会の姉妹町交流として、富士見町から12人の代表者が来庁し、情報交換を行いました。評価はBとしました。以上です。

教 育 長：（7）について、ご意見ご質問はありますか。

高橋委員：Cという評価対象は何。

山 本：そうですね、小項目の男女共同参画の意識改革ということができなかったというふうに感じたというところでCとしています。

高橋委員：点検評価のところでは、計画を策定しました。広報にしいずに記事を掲載し啓発に努め

ました。Aでいいじゃん。意識改革として5年計画を策定して、広報にしいずへ記事を掲載して啓発に努めたんでしょ。じゃあ何でCなの。

教 育 長：取り組みはしたんだけど意識が変わらなかったんじゃないかっていうことで評価したってことかな。教育委員会としてはこういったことをやりましたよってことであれば高橋委員が言うようにやることはやっているんじゃないって評価をしてもいいのかなと。

山 本：はい。

高橋委員：私、この策定に関わったんだけどさ。結局役場の中で、住民含めた中で一つにね、各課で連携して、月1回その反省してね、そういうのをつくったよね。前の係長が。そういう月1回連携を図ってその取組はどうだったとかね、教育委員会としてどう指導していくとかさ。そういうものを、何か具体的なものをやったんじゃないかな。C評価とするならその理由を記載すべきだと。

朝 倉：そうですね。ここはC評価とした理由を付け加えさせていただければと思います。

教 育 長：それでは（8）の説明をお願いします。

川 口：はい。それでは（8）子育て支援の充実、子どもの居場所づくりについてご説明いたします。小項目、幼児期における子育て支援です。子育て支援センターでは、育児や家庭環境に対する不安や悩みを抱える保護者が増え、相談内容も多様化している中、開所している意義は非常に大きく2施設で年間延べ496日開所し、1,484人の利用がありました。土曜日は隔週で開所しましたが、少子化と保育料無償化に伴う入園の早期化により対象児童が減っていることから、昨年度に比べ利用者が447人減少している状況です。子育て支援センターでは、毎月開催する会議の中で様々な意見交換を行い、子育て支援の早期対応に心掛けたほか、町内全ての未就園児の把握に努め、家庭訪問や手紙に加えSNSラインを活用して情報提供をするなど、利用促進を図っています。また、こども園においては、特別支援コーディネーターの配置により、発育などの相談窓口となっているほか、町の巡回相談員の子育てアドバイスのコラムを園だよりに掲載するなど子育て支援につなげる取組も実施しています。

続きまして、小学校における子育て支援です。仁科小学校の放課後児童クラブを287日開所し、多くの児童を受け入れました。学童保育時間が長く、人数も増える長期休業中には支援員を3人体制とし、見守りや支援を必要とする児童にも対応しました。また、長期休暇中には、賀茂小学校の児童も受け入れました。登録人数は40人（仁科小学校30人、賀茂小学校10人）で、延べ1,925人の利用がありました。土曜日や長期休業期間も含めた平均利用人数は6.71人となりました。昨年度に比べ登録児童数は4人増加しましたが、1日当たりの利用者数は1.63人減少しました。月に1度は支援員会議で情報共有を行い、利用しやすい児童クラブの運営を心掛けました。以上です。

教 育 長：（8）について、ご意見ご質問はありますか。よろしいですか。それでは最後に自己点検全体評価について説明をお願いします。

朝 倉：はい。それでは自己点検全体評価について説明いたします。1の教育委員会の活動です。定例会においては、活発な意見交換や情報共有が図られるとともに、議案の円滑な審議が行われ引き続き良好な委員会運営が図られました。また、総合教育会議では、町教育行政の課題について首長と率直な意見交換が行われ、相互理解と共通認識が図られました。とまとめさせていただきました。

次に2の教育委員会が管理執行する事務です。事務処理については、漏れや遅滞がないように心掛けており、適正に処理できたと考えています。とまとめさせていただきました。

次に3の教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務です。「西伊豆町教育大綱」及び「西伊豆町教育行政の基本方針」に基づき事務・事業を執行しました。4月8日に賀

茂小学校統合式を挙行し、新たな賀茂小学校がスタートしました。昨年度に引き続き、「小学校のあり方を考えるワークショップ」を開催しましたが、第5回のワークショップにおいて、ワークショップ参加者から解散を問う意見があり、参加者へのアンケートの結果、ワークショップは解散することになりました。令和6年3月に文教施設整備委員会から答申のあった、認定こども園建設第一候補地の安良里中田避難地付近の調査費用を7月25日に開催された臨時議会において、補正予算（第5号）に計上し、議会に上程しましたが、修正動議により予算可決には至りませんでした。また、令和6年11月18日には、仁科・伊豆海の両認定こども園PTAから「こども園建設に関わる切土調査（仁科小学校から旧西伊豆中の裏山を切土する案について建設可能ならばそこに建設してほしい）」及び防災シェルターの導入について要望書が提出されました。これを受け、伊豆海認定こども園に防災シェルター2基を設置するとともに、補正予算（第10号）に認定こども園建設候補地調査業務委託の予算を上程し、調査業務を発注しました。

学校教育関連では、給食費の全額補助、高校生通学費助成や松崎高校給付型奨学金の支給など、子どもの教育にかかる保護者の経済的な負担を軽減するための施策に取り組みました。また、1人1台のタブレット端末を活用し、小中学校でのICT機器を活用した学習の充実を図りました。中学生を対象とした国際交流事業は、5年ぶりに台湾との交流事業を復活することができ、5人の生徒が台湾のホストファミリー宅で4日間のホームステイを経験しました。帰国後は校内発表会を開催し、大変有意義な事業を展開できました。子育て支援、防災教育、不登校対策、複式学級対策、特色ある教育の推進などの西伊豆町独自の事業推進にも引き続き積極的に取り組みました。

社会教育関連では、既存事業を検証しながらより効果的な事業となるように改善を図るとともに、町民まちあるき、わくわく体験村、わんぱくクラブ、親子漁師体験、文化講演会など各種事業を実施しました。夕陽の郷マラソン大会については、参加者の低迷により、事業を廃止しました。

文化財保護審議会では、昨年度に引き続き旧田子中学校において、文化財展示会を開催し、文化財の積極的な活用を図るとともに、町民の文化財への関心を深めました。参加者から大変好評な意見を多数いただき、次年度につながる取組となりました。また、町内小学校3年生や仁科小学校6年生を対象に社会科見学として受入れ、昔の文化に触れていただきました。

課題としては、少子化・高齢化が急激に進む中で各種年齢層のニーズをしっかりと把握し、新たな事業展開を模索する必要があると考えています。また、当町が直面する様々な課題への柔軟な対応も不可欠ですが、限られた予算の中でより教育効果を高めるための工夫・改善を図る必要があると考えています。

全体として、認定こども園の移転については、1年間停滞となってしまいましたが、伊豆海認定こども園への防災シェルター設置については成果として挙げられたと考えています。引き続き、これからの認定こども園・小中学校のあり方について、将来を見通した西伊豆町の教育のあり方を検討していきます。以上のとおりまとめさせていただきました。

教 育 長：自己点検全体評価について、ご意見ご質問はありますか。

高橋委員：うまくまとまってるんじゃないかな。

教 育 長：よろしいですか。それでは、本日指摘いただいた箇所について修正して評価委員会に諮ってください。本日の議事案件は、すべて終了いたしました。

以上をもって令和7年度第2回の定例会を終了します。皆様、お疲れ様でした。